

平成26年度 妙高市外国語活動部

活動報告

部長 嶋田 和雄

1 研究主題 「小中連携した外国語活動のあり方」2年次

2 研究の概要

妙高市教育研究会外国語・英語部員の多くは、市の外国語活動推進委員にも所属している。そこで、市教育研究会と市外国語活動推進委員会との連携した研修会を計画し、小中双方向の授業参観や協議会を行った。4月には、中学校1年生の授業公開（ブリッジカリキュラム）

12月には中学校3年生の授業公開を行い、小中学校の円滑な接続、中学校における英語科の系統性等、具体的な授業スタイルを探り、課題や改善策を検討した。

また、各校においては外国語活動研修日を設定し、教師の授業力・指導力向上を図った。

3 研究の実際

「関わり合いを取り入れる場面と内容の工夫」をテーマに中学校3学年の授業公開を12月に行った。

単元名 SUNSHINE ENGLISH COURSE3 My Project 8 伝統文化を説明しよう

授業者 妙高中学校 教諭 親跡祐子

英語科では目指す生徒を①自ら考え、適切な英語を使って自分の思いや考えを表現しようとする生徒②お互いの考えや意見を伝えあう中で、自分の考えを深め表現力を高めようとする生徒と捉えている。授業は、生徒が調べた日本の伝統文化をALTに紹介する活動をペアで行った。個人では日本の伝統文化を英訳することが難しい作業でも、お互いが関わり合い、協力しながら学習活動に取り組むことで、英語を苦手とする生徒も相手の意見や助言を参考にしながら自信をもって学習活動に取り組んでいた。

ALTが知らない日本文化について紹介するという課題は、生徒の目的意識を明確にし、意欲的に取り組んでいた。また、ALTへ説明するだけでなく、ALTからの質問にも答える場面もあり、活動の工夫があった。発達段階から中学校3年生になると人前での発表を拒むことが多いが、日頃、英語科において話す活動を多く取り入れた授業を垣間見た。

授業後の協議会で、指導者から次のことについて指導をいただいた。

- ① ALTからの質問に対しては、単語や簡単な文節でもよいから、即興で応えられる力を育成する。中学校におけるコミュニケーション能力の第一歩である。
- ② 週4時間の英語の授業の中で、ALTとTTで授業を行う場合は、コミュニケーション能力を養う授業として構築する。読む、話すことを支流にする。
- ③ ALTが発する正しい発音、英語らしい発音に近づける。
- ④ 授業では、たくさん生徒を褒め、認める。
- ⑤ 表情が硬い。笑顔で受け答えができるようにする。



4 成果と課題

市教委外国語活動推進委員会と共催で研修を重ねることで、市教研部員以外の教諭の参加も募ることができた。小中の教諭が互いに授業の参観や協議会においても、小中の連携や教諭の授業力・児童生徒の英語力の視点から活発な意見が交わされた。

また、各校においてはALTによる教材研修会を実施した。2020年を見据え、各校の外国語活動推進リーダーを中心に学校全体で外国語活動研修を推進できるような体制が位置づけられてきた。

次年度は、各校における外国語活動研修をさらに充実させ、教諭の英語力、授業力の向上を図り、成果や課題を明確にしていきたい。

